



防火策圖解 上

三十二

78
1959
1



安政丙辰官許新鑄

東壑翁著



防火策圖解

附地震劇風津浪豫防法圖說

鐫川堂藏



防火策圖解叙

人之在世也。不能身究一藝。通一術。而敷德於當時。流澤於後世。徒務詞章記誦之業。謾夸博物多能之目。或惑浮屠異端之教。或唱西洋窮理之說。或錐末是競。或進仕是躁。或玩弄風月。或沉湎酒色。生而無益於國家。

8邊
1959
1-3

防火策圖解序

死而與螻蟻同朽。豈可謂之有志之士哉。小田東壑翁者。有志之士也。其爲人。端毅方正。忠信誠慤。夙抱經濟之志。而不敢孜孜於詞章記誦之業。一且罷仕。退隱於醫。遠聲色。菲衣食。而專用力於實學。以富國利人之說。自任。凡自軍法兵學。以及器械製造。機

智妙算。出人意表。醫業之暇。出其緒餘。以示諸人。人皆無不歎服。其自信之篤。筆之於書。以藏于家。是以著述頗多。頃將刻防火策圖解。示予曰。此吾二十年来。覃思研精而所得。防火之一術也。將播布之於世。而使人脫回祿之禍。請子爲我序之。予受而閱

之。其言詳確。其意深切。其製器適用也。新奇輕便。其於防火之說也。可謂古今未曾有之書者歟。蓋太平之世。人無兵革之警。土無劫掠之患。安閭里而可以住焉。構堂榭而可以居焉。人煙如雲。錢貨輻湊。膏粱滋味。於是乎可以飽。華衣綺裳。於是乎可以服。

寶貨可以藏。錢穀可以蓄。而其平常不可高枕席而安。起卧者。其唯火災也。已。寒冬以警。風烈以懼。報火而鐘聲響。呼火而柝聲傳。官吏出。街卒馳。其初起。自爇炬。而其終也。至燎原。煽煽赫赫。焦天炙地。如流星之飛空。如萬弩之衝陣。中燄者傷。迷煙者斃。假

使兩師驅兩陽侯激浪。遂不可以撲滅之。而況於人力乎。閭里市鄣。於是乎變而為墟。堂宇臺榭。於是乎化而為灰。寶貨焚滅。錢穀燒亡。當是時。捐資失產。顛沛流離者。不知其幾。太平之世。使國力疲弊者。火災為最大。是以官置消火之員。街設消火之卒。龍

以吐水。扇以回風。所以防之之方。亦可謂備矣。而遂不可以防之。延燒連燬。小則數百家。大則數千戶。雖防火之神。鎮火之符。亦無奈此何。其竟也。謂之天災。劫火而後止。可歎矣。夫嗚呼。火誠不可防邪。若誠不可防。則國疲民窮矣。翁之著此書。將防其不可

防者而攘其災。救其窮也。初聞之。其言竒而可疑。後察之。其事微而可信。夫鎮火之水。防火之幙。翁皆得之乎。尋常耳目之所觸。而窮其理。而贊其用。其才踰西洋窮理者之上。而闡先賢未發之秘者歟。其有功德于世也。亦大矣。蓋以其平生學主實用。而不

務浮華。富國利人之心。出於忠厚。至誠而弗已。故歟。其於附錄亦復如此。如此而後。生則有益於國家。死則不與螻蟻同朽。施之乎實地。而其功愈著。則防火之神亦將以有所遜其德歟。身生於聖。沒千載之後。而能創此一大偉事。孟軻有言曰。豪傑之士不

待文王而興。予今為翁請揭此語。安
政丙辰冬十月柳浦居士青木槃叙

防火策圖解卷之上



東壑翁 著

大正四年五月
内田銀藏氏贈

凡^{オノライ}太平^イの世^ヨふ當^{アタツ}て國家^{コクカ}の財力^{サイリョク}を瘡^{ツクラ}一^レ士民^{シミン}の盛衰^{サイノイ}小^カ拘^カ
る^モ危^クき者^{モノ}も火災^{カサイ}の變^{ヘン}より大^{オホイ}ある^{コト}はな^ク一^レ殊^{コト}小^{オホナシ}又何^{ナニ}時^{トキ}
災^{サイ}も亦^{オモ}も側^{カタ}知^チ危^クく^クは極^{キマ}て火急^{カキ}ある時^{トキ}ハ身^ミも危^ク
く逃^{ニゲ}る^{コト}途^{ミチ}を失^{ウシナ}ふ事^{コト}あり至^ト貴^キの傍^{オホカタ}方^{カタ}も下^ゲ賤^{セン}の
處^{トコロ}小^チ至^シると是^{コト}を恐^{オソ}む者^{モノ}も危^クけむ別^{ワカ}一^レ烈^{レツ}
風^{フウ}の砌^{キマリ}も一^{イツ}刻^{コク}半^{ハン}刻^{コク}の留^{アヒカ}も安^{アン}心^{シン}ある^{コト}べ^クく^クは其^シる^{コト}小^チ又

愚^ロろある人^ヲもそ危^アきふ安^ア居^キして何^{ナニ}の用^{ヨウ}意^イもあ^ハら^ズ終^ツ
 不慮^{フリヨ}の火災^{カサイ}ふ大損^{ダイソン}毛^{モウ}して渡世^{トセ}の手段^{シユダシク}工風^{コウフウ}も盡^{ツキ}果^{ハテ}
 十^ト方^{バウ}ふく^レ氣病^{キヤミ}とあ^リて百^{ヒャク}年^{ネン}の壽^{シユ}を^シ一^{イツ}擧^{キョ}ふ滅^{メツ}する人^ト
 写^マし是^{コト}あ^リて哀^{アハ}れ^ムも又^{マタ}歎^{ナガ}し^ムも次第^{シヤブ}あ^リて借^{ツク}出^デ火^カの根^{コン}
 元^{ゲン}を考^{カウ}ふ^カ初^シ發^{ハツ}ハ僅^{ワヅ}うあ^リる消炭^{ケシヤミ}の殘^{ザン}火^カ炭^{スミ}つ不^フの
 中^{ナカ}子^{オコ}起^キり返^{カエ}り或^ナハ床^{ユカ}下^{シタ}ふ入^{イレ}置^ヲ處^{トコロ}の灰^{ハイ}桶^{オケ}のぬ^ヌくも或^ナ
 る物^{モノ}迄^{マデ}二^ニ階^{カイ}等^{トウ}ふ燈^{トモ}火^ビを忘^{ワス}れ^ズ煙^ケ管^{セル}の吹^{フキ}壳^{ガラ}或^ナも小^コ
 童^{ドチ}の戲^{タシ}花^{ハナ}火^ヒの類^{タビ}又^{マタ}ハ大^{オホ}部^ベ屋^ヤ臺^{ダイ}所^{トコロ}普^フ請^{シヨ}小^コ屋^ヤ或^ナも貧^{ヒツ}
 童^{ドチ}の戲^{タシ}花^{ハナ}火^ヒの類^{タビ}又^{マタ}ハ大^{オホ}部^ベ屋^ヤ臺^{ダイ}所^{トコロ}普^フ請^{シヨ}小^コ屋^ヤ或^ナも貧^{ヒツ}

一^{ヒト}さ者^{モノ}ども寒^{カン}夜^ヤを凌^シぐ^ル為^{タメ}ふ抱^イく^ル處^{トコロ}の火^ヒ桶^{オケ}或^ナハ
 火^カ燧^{タビ}の埋^{ウマ}火^ヒ又^{マタ}も挑^{テウ}灯^{チン}を^ヲと^リて^テあ^がら^ズ枕^{マクラ}元^{モト}ふ^キ
 て毒^チ忘^{ワス}れ^ズ蠟^{ロウ}燭^{ソク}よ^リ燃^{モエ}る^ルも或^ナも焚^{タキ}火^ビを^ヲかん^ゼせ^ル處^{トコロ}
 児^コ童^{ドモ}小^チお^シ任^{マカ}せ^ルを^シ或^ナも熟^{ジュ}醉^{スイ}して火^ヒを^ヲ焚^{タキ}あ^がら^ズ居^イ
 眠^ネて^テ相^{アヒ}發^{ツク}し^テ或^ナハ蚊^カを^ヲ焚^{タキ}は^がら^ズ居^イる^ル
 て發^{ツク}する^ルの類^{タビ}見^ミ皆^{ミナ}孤^コ獨^{ドク}の貧^{ヒン}者^{シヤ}一^{イツ}時^ジの過^{アヤ}やむ^ル事^{コト}
 を得^エざる^ルよ^リて發^{ツク}火^カ談^{タン}ふ大^{ダイ}事^ジハ小^{セウ}事^ジよ^リ起^キる^ル火^カ災^{サイ}
 る小^{セウ}事^カよ^リ發^{ツク}火^カと宜^ムあ^るる^ル往^{ワウ}古^コよ^リ大^{ダイ}火^カ災^{サイ}の

防火策圖解
 卷上

様様を察するふ元来火災も多ううぬ平常火の元
 用心手薄の辺隅孤獨極貧の小家あどより發して
 折悪く烈風あどよと 御府内ふ焼入蔓延して大
 災とある事少あううび或も又市井の中より火災
 の發動ふまぎれて盗せんと巧み或も焼打金銀洞
 鐵猪鉄抱を拾ふあうむとて毎ふ火災のみむ事
 を希ふ邪欲盜心の者多く烈風の夜ふ乗ド放火
 して遂ふ延焼ふ及ぶの類是もあ小半より起て

大患ふ至る殊更東都も和漢無双の大都舎の地
 ありて人家救百万戸古より火災多く明暦三年本
 郷丸山よて出火一又同日小石川傳通院前より出火
 一 同十九日麴街五丁目よりも發一以上皆一帯と必
 江戸七分の類焼して焼死の者拾万八千人ふ及ぶ
 と云又安永元年目黒行人坂より出火一 千住と焼ゆ
 ぎ火尖末ど消ざる内ふ又小風ふ変て芝田町と類焼
 一 是亦焼死人多く又文化三年高輪よて出火一 淺草

反圃と二里三十町余焼拂小一由是等の大火災も
 今小於て世上小傳少なるまふして市中の焼亡怪象
 人々救を乞ふ處々々近き頃より文政十二丑年三月
 廿一日外神田佐久間街より出火一築地のさき海手
 と焼拂小その後天保五年二月七日又同街より出火
 鉄炮洲海手と類焼一同日丸の内より出火芝口
 辺海手と焼拂又弘化二己年正月廿四日青山松田
 系より出火高輪海手と焼拂小翌午年正月十五日

本々丸山より出火鉄炮洲と類焼一赤永三戌年二月
 五日麹街四丁目より出火芝令枚海手と焼拂ふ是
 等の出火も火災の大あるものありて外五町十町
 二十町位類焼の小火災も年々四五交つるも其
 後赤永三戌年中西の窪日本橋四日市安針街等九
 一ヶ年の内所々の火災をたつむる時も小災も亦大
 災とある尤赤永五子年正月四日両国米沢街出火
 の節さの烈風も亦々快晴の時最思の外延焼せ

より火の元の檢列して 御嚴重小火 作付扇敷

衆番足廻り方火 作付

御威光を以てその後大火災等市中一統相助り偏

御仁政故と絶つ安堵仕ル事猶又嘉永七寅年十一

月五日聖天街三又小出火猿若街南小馬及よ

花川戸と焼拂小又同年十二月廿八日神田須田

街小出火一意外の大火災とあり日本橋江戸橋

を限り小類焼一又安政二年二月二日の秋丑刻

小網街壹丁目小出火一南風烈しく浅草茅街と

延焼せしき出火の時市中焼亡せる家の令限米

穀絹布器財諸材木の類 本邦諸國の産物も言

ふ及む漢土和蘭舶来言價の織物貴藥を外日

用の諸品小至ると幾百万金の蓄財山の如く小積草

の如く小聚て悉く是を火小投して灰燼とあり

去うの如くあつた米穀器財とも小忽ち言價小進く諸

職人の手留料三倍五倍小至り諸人の絶滅し

防火策圖解 卷上 五

こぞ自茲上下衰耗の基實小歎息小恠久列侯の
富と雖錢穀財の燒亡も差を第一令限して求
め給さ累世持傳りしもの武器重宝記録書類を
燒失小珍本奇材万金を抛て修理し給ひし殿
宇樓榭も一瞬の留小灰燼とある惜むべき如爰
小於て領内大小の百姓平生の恩澤小砂小再造
經營の力を助け奉らむと家産を傾き用令を出
以て上下の辛苦疲弊亦兼多也市況も市井商

估の輩小至くも三年小一及五年小一及此大厄小遇
或も燒亡の後雖小普請經受をも雖も人々の運勢小
より不幸ありて亦再燒もるゝ如きも抛入骨折千辛万
苦して漸く再造の功を遂げに未だ暫時も住居
せざる中火小投ぜん事を歎き強て是を防ぎ挂む
とすれば猛火の為小身を燒き焦損火傷もる
者少くは故小烈風大火の時小當て唯恐しき事
小の心得救万の人々周章狼狽して火を防ぐの術も

防火策圖解

卷上

六

おく徒小家財を運小逃るを専と次是小於て火
勢を愈熾イヨクサシ小ありき火尖を軒端よそ新堀ふつこ
屋根裏ヤ子多も屋根裏に燃走モエハレて小写戸コマドよそ小写戸ト
吹通フキトワ一床下よそ床下つて小蔓延マレユレ一此小ありうと
思カレ一が彼小燃上モエアガり忽ち二町三町の遠トラさ小燃走り
大小の火屑ヒクダも烈風レツフ小たて散乱サシ一大道堀川大土
手を打越ウチコ一思小シすうさるトビ飛火トビヒして燃上モエアガりて混
雜ヤク小因ヨウく猶更ナラサりて焚火タキヒをそ俵マ小捨ステて逃ニゲるトビ焼

出モるトビもあり炭火埋火スミビある火鉢ヒバチを土藏ドク小入イレて内ウチの燃出モエ
火も多タて火上ノエ小火ノエを添ソエ火口ヒロも漸ビシく救サツ十ジュウ妙ミョウ小あり火勢益
益タしく千金イニクラの家藏イニクラ万令マンレイの諸商物ムゼも一時イツ小焼滅ヤメし
炭灰スミとある写シをよヨく持出モて一ヒトハ盗ヌスとありうトもあり
老人小兒イロシヤ多く病者シヤカシ盲人メカシある者カも小抱カク小手廻テマり兼家具カガ
商物等シヤモノも出イ火イ燄イもイかく周章アハテ騒ワザぐ土藏メの目堂メ穴アナ竅クの
蓋フタもイ半イも叶イとイ令イ限イり小逃出ニゲイダ一類焼ルイの後ノチ小至イり立
のイもイ小ありイもイ且イ又飛火トビ一イ行光イ小イ火尖イ燃出イ一イ烟イ

氣ふとあられ倒るるもあり老人女子小兒の輩も逃了途中
 又踏倒され怪家ももろく元々周章混乱紛ふ小暇なく
 見る小忍び難く古より大商の主人も火災の一擧小林緑基
 多を失ひ元引先令融差支へ年来手馴る仕来りの後世
 も終り兼妻子を牽て路頭小流落するも何れ有為轉
 變の世れ中とい言ながら火災の一大変より上下の
 困厄ふ及る形ゆの如く殊に諸物焼亡諸事拂底なる
 小よて市中彼是せも揚て諸物の價職人の者自

出とい貴小進り第一材木の類も近頃高山探谷樹
 出の難いままでも手段工夫を尋へ悉く伐本も
 故小進り良材も乏しくあて愈言價小募る斗りくけ上
 と止半とほむく一年々大火災あつて上下の疲弊
 測知危うくは是小加つる小飢饉水旱の災をも以てせば
 其患亦何れや實小火災の一大変へ必家の財力を
 疲らし士民の盛衰小可く上下衰耗の基とあつて死
 るの歎故小防火の術預め講究準備せむんをむづろ古

昔戦争の世弓箭を以て戦ふ時を楯を以て是を
 防ぐ事後炮銃浚来し戦法烈しくある時又工風
 て新小竹把を製作して是を防ぐ既小利根川の如
 きハ坂東第一の大河ゆて不時小洪水の恐もあるが
 故小秋しめ廣大の地塘を築たそ水溢を防ぐ今
 火災を防ぐも秋しめそ器具を準備する小河しづれば
 是をよく防ぎたる半叶ふ危うしづれば小尚今防具
 を用心びく防ぎむと欲するも楯竹把等より銃

を防ぎむともる小等しく如何して能防止をばる今世
 上りし龍吐水を以て第一の防具とありと雖大風猛
 烈の火尖りお水人力の能及ぶべき事よ非ばを来
 有心の士頗る防火の術を説者あるども用費多
 く且迂遠ゆて實地小功用あり殊小を頃々町並
 家毎小用心水を汲あつべ餘多流吐水を備へ晝松の
 番扇重ある時暮をたまく出火してさのそ風も烈し
 うらら小思の外蔓延して大火災とある事あるハ警

時シも安アン心シンあるべし。火シ實シ小シ烈リ風フウ猛マウ火カの蔓延マンエンしるる
 中ナに水スイ吐ト水スイ人ジン力リキの及ヨぶ。幸コウ必ヒツせざるべし。
 天地テノチの妙用ミウヨウ自然ゼンゼンありて万物マンブツを生シむるあまれば必ヒツに相アイ
 尅コクするの物モノありと云ク危クしるる。譬タトへば王水オウスイ硝酸セキサン硫酸リウサン塩エン
 酸サン等の令キレ銀銅鉄ギンドウテツを溶解ヨウゲするは火勢カセツをくくべし。て
 水スイのぬくまを以モて車クルマ猶ナホ熱湯ネツトウの氷雪ヒョウセツを消シるべし。又マタ石シ
 鹼ケンの脂垢シカカを除シき灰汁ハイジツの臘脂ロウシを尅コクし梅酢バイソの臘脂ロウシ
 火カを生シ活カクせし免礬マンハン石シの蘇枋ソハク火カを美活ミカクせしめ生シ

姜汁キヤウジツの血チを消シするの効キウも妙ミウ効キウ舉キョウげ算サンる不フ暇イダマあり又マタ
 水中スイチュウ小投コトウぐく沽濡コトシユせざる物モノあり火中カチュウ小投コトウぐく焼燼シヤウセン
 せざる物モノあり予愛コふ於コて救サツ十年ジュウネンの写シヤク防火フカカの一イツ術ジュツ
 を工夫コウフし晝夜シヤセリヨ千慮センリヨ萬考マンコウして漸シヤく赤永カヘイ之ノ庚戌カヘイの歳サイ
 小コかり防火フカカの術ジュツありて至易シイ至省シイカンありて用費ヨウヒ火カ
 く事コトの急キウ小臨コリンべし。應オウずるのシヤク一策イツサクと發明ハツメイせし
 其術シツたるが第一ダイイチ軒端ケンタン屋根裏ヤクネウラ小窓コマド戸床カド下カドさふ吹入フキイル
 る変比ヘンヒ猛烈マウリョウの火尖ヒサキハ勿論ムロン微少ビシウの烟炎エンも吹入フキイルざる

様防具を以て遮隔し且又初發屋上小燄上らんと

する火も立寄らば消し一二家小傳焼も忍小防

止し一町二町小延焼も急を遮り止し消滅せし

むす劇風猛火小向ひて防ぎ止る事自在あるが故小

如何ある烈風の時と雖大火延焼の患あり且予が

工夫の防具を用ゆる時も町並門口五町十町或ハ二十町

三十町小及ふ要し人足五人十人小手廻り素人小

てしを働き自在ありて如何ある烈風猛火と雖も

密相遠遮隔消滅するが故小諸人周章狼狽る家具

を拵運小逃るの終るもかく各々安心して防ぐ處し

縦令如何ある近火急火と雖も人の心中おどろくある

が故小前後限札の患あり此御行も小至くと東都

も勿論京都大坂五海道狭く至くと強き備り人家

叢集の地小至ると大火延焼の患あり小至ると其

時と茅宅田祿の禍を脱し錢穀焼亡の患あり万

貨流布し拍價平坦し四富民饒小上下安堵し

太平の禰キタ小鼓腹フクをシ九世小國益コクとトキ響ヒるコトのトキ
防火の一筋小勝シるコトあるコト危シくシびシれシどシ世の中ニ
も都會の地小火災あるトキも亦職シヨク呆暇シりシて令
融ニウ宜ヨクくシてシ上却シて不景氣フケキありシと心ココロ好遠ニきシるコト輩
もシらシんコト歎シきシ皆

御恩澤オンタクのシ慈ニ多ク半ニをシきシまシるコト者トもシのシりシてシ謀マコトりシて
恐オソるコト多ク半ニをシ何ニとシあシるコト消火シ沙シ佛シ沙シ人シ出シ馬
のシ毎ニ小シ手ニ入シりシてシ又延焼ニのシ苦シをシ普

鎮所影チンシヨウく市中の橋ハシ斗トもシ入シりシて容易ヨウイありシて
為シるコト小市中困窮クワウキウの類ルイ焼人シヤウジン餘ヨリ死シすコト可シ及シ小のシ慈ニ澤タクのシ去シ
りシもシ毎ニ家ニ法ニ救シ小屋コウシヤをシ為シ建ケン數日スジツのシ留ル沙シ扶シ助シをシ必シずシ
るコト又飢饉キキのシ苦シも市中一同イツドウのシ沙シ救シ米メをシ下シるコト
御仁政ニセイのシ慈ニ多ク半ニをシきシまシるコト已シまシるコトか亦職シヨクのシ累レイ
暇カありシとシ厭イひシ
御上様ミカミのシ沙シ慈ニ悲ヒとシ法人フジンのシ慈ニ備ビをシ思シひシてシ又却シて
火災カサイのシ多クきシをシ欲シするコト者トも實シ小軒コケン高タカ邪工ジャコウのシ花ハナありシ

致身自ら火を放ち盜をあさるも悪意欲情小
 慕るへ一かゝ感應經曰夫心起於惡惡雖味為而凶
 神已隨之入皆惡之刑禍隨之吉慶避之惡星災之
 と乞只そ惡念の心中小萌たる斗りもくつまゝ惡事
 へあさるも惡星の崇ふ神の咎初の如く也
 して恐る危うんや且又火災多き時と縁職の作料
 倍増小至り一旦利深ある様小たゆるも火災の為小
 法不直あるも年増あり又已むく小買ふるも亦

小於て却て損毛多けは則ち何の益あるんや諺
 小己より出る者も又必び已小歸るとして世上諸人の
 給儀を好む者も又めぐりて必び已が方のつまりと
 ある人の給儀を悦ぶの報恐るべし古語ニ利入者
 天必福之惡人者天必福之とて他の給儀を以て
 已むく利徳とむるを悦ぶ者も譬へハ毒を食いて腹
 を肥むが如く一旦も腹小充れどもやがて身を失ふ
 處一 天此種佛も乞を免一たまを乞そ流擡も潜小

火附盜賊人教する者此を罪忽ち厥きて目前火刑
死刑小をせしむるを以て其理を考へ知る處一將又
毎歲燒亡すまの幾百千万令の諸不悉く必土
不存存して用を時を益の廣大ある半如何
むかりや兼令法職の作料下直しくも亦已れが日
用買入の所く下並あるを平日の暮一方小於て却
利徳多し是亦人を利するもの天必以是は福をの
道理におよそ万種流布し誠教餘りて必廢せ

民窮するの理りしんや法亦の價下落する時ハ四海一
統下落のまゝく相互小甲乙をく循環するもの天
地自然の理あり故小防火の二制を實し必其を
富し上下士民を饒足せしむるの第一ありものあり
若是を誅て火災を好むものあり
御治世の大罪人との處し故小防具を用意して
各能火災を防く時を第一小自己の厄難を除き
次は諸人の類焼を脱せしめて

御上様ノの忠義 御國恩を報ウむるの一端イッペンありて
 感應カンオウ經キミ心ココロ小善コゼンを起オコせがいまイマ善身ゼンジンをオクるトのトも
 吉神キツジン已イ小コ之ノ小コ法ホウ小コ天道テンドウ之ノ祐タマ多タ福祿フクロク之ノ小コ法ホウ
 衆邪シュジャ之ノ小コ遠トウて神靈シンレイ之ノを衛マモらむとシて故コ小コ今イマを防
 具ツ法術ホウジュツをオク解トクりて遍ヒロくヒを世ヨ小コ弘ヒロ免ヒ人ヒト小コ示シ
 して太平フサイ防ブ災サイの用ヨウ小コ備ビむと欲ホツ以ヒ且ナ又マタ去ク卯年ウ年
 年ニ十月ジツ二ニ日ニ夜ヤ戌シユのノ下ゲ刻コク 御府内ミフチノの大地ダイチ震ユる古コ
 今イマ罕コトある大變ダイヘンありて江戸エド一イツ帯タイとシて中ナカ小コも深川フカガハ本ホン

所トコロ淺草アサカ下谷シモヤハ別ワケして猛劇モウゲキありて壁カベの土ド務ムも悉シツ
 く壁カベをオク小コ家カ宅タク長家チカヤ町チヨウ並ナミ一時イツジ小コ震ユつク此コト時トキ
 小コ當アタて諸人シヨジン逃ニゲ出イダる暇イマもなく梁カ小コ壓オサを柱ハシラ小コ折ウる
 偶オウ逃ニゲ出イダる者モノハ戸外コノソトより落オチる處トコロの庇ヒ小コもも是コノ處トコロに
 くるキるル土ド務ムのノ管カネ小コ折ウれぬ故コト次ツギ往來ウライ小コ排サ徊ヨ者モノも左
 右ミダより落オチる屋根ヤネ庇ヒ小コも是コノ處トコロに死傷シヤウもるの影カゲもも是コノ處トコロに
 小コ徒ツ火ヒを以モて救ユク百ヒャク卷マキ所トコロの火口ヒロ一イツ齋サイ小コ旗ハタ上ウる
 推オシるル毛モウを防ブぐ去クるルもも火勢ヒヤウ天テンを焦ユくク

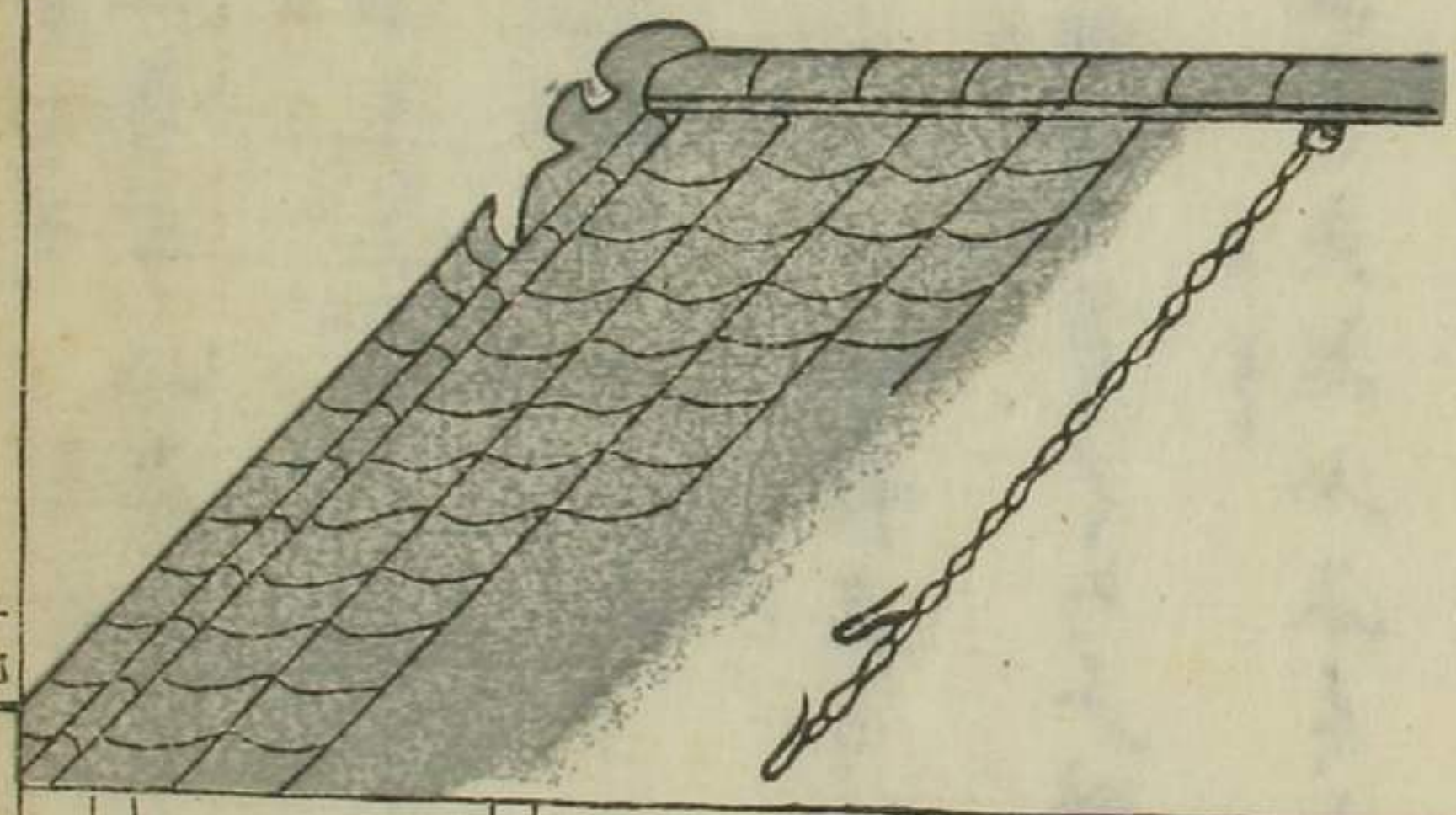
中チカ小コもいイまマびビ死シするス不フ到ト了リヤス運ウンよくク屋ヤ根ネ下カ穿ウちチ出デるル
 もあモれレどド又マタ逃ニゲるル半カ叶ハいイてテ其マ後ノチ焼ヤク死シするスもモ有アりル或シカハ
 父チチ母ハハ兄ケイ弟テイをヲ失ウシひヒ或シカハ妻メカ子コをヲ失ウシるル一イツ家カ内ノ
 主ヌシ後ノチもモ不フ死シ傷ケむムもモ有アりル或シカハ五イツ十ジュウ人ニン六ロク十ジュウ人ニン同ドウ時ジ
 不フ死シするスもモ有アりル其マ死シ亡ヤウ業ノ万マンありルやヤ初ハジメにニ危アザカシうウるル火ヒ殊ツ不フ
 土ツチ親ニハ悉シテくク破ハ壊クしシ上ウ下カもモ同ドウ時ジ不フ火ヒとト同ドウ時ジ
 火ヒ中ナカ不フ残ゼンるル一イツ土ツチ親ニ亦モくク未イマだダ決ケツまマさサるル家カもモ押オシ進シメてテ
 類ルイ焼ヤクしシ救クウ万マン令レイのノ株カ株カもモ暫シバ時ジのノ留ル小コ鳥ウとト有アりル
ナク

運ウンよくク九ク死シをヲ免メ脱ダツしシ者モノもモ寐シ卷マキ一イツつツとト運ウン延エン依イ
 小コ孤コ獨ドクのノ窮キウ民ミンとトあアるル實シツ不フ相ソウ思シしシ目メもモ何ナニもモ有アりル
 ぬヌもモ抑ヨサへヘ是コト何ナニぞゾ放ハナすス大ダイ地チ震シるル百ヒャク年ネン又マタ
 二ニ百ヒャク年ネンのノ留ル小コ鳥ウもモ有アりル或シカハ半カ年ネンあアるル
 其マ防ブぎキ方カタをヲ知チるルものノなナくク年ネン々々唯タ火ヒ災サイのノをヲ患ウへヘとト
 してシテ家カ宅タクのノ建タテ方カタをヲ粗ソウ畧リヤクあるル小コ鳥ウもモ近チカ年ネンハハおオ
 つツたタ諸シヨ國クニ小コ大ダイ地チ震シるルたタらラばバ此コト後ノチとトてテ東トウ都ト小コ
 於オてテ再サヘ變ヘわワるルことトもモ云イハべベくク以モ兼カてテ是コトをヲ防ブぐクのノ心ココロ

得方^{エタ}あ^タん^タが^タあ^タる^タ一^タく^タ予^タへ^タ元^タ来^タ地^タ震^タを^タ怕^タる^タ事^タ
 一^タ死^タふ^タよ^タす^タ欲^タし^タ免^タれ^タ防^タぎ^タ方^タを^タな^タせ^タ放^タふ^タ予^タが^タ居^タ
 宅^タを^タ劇^タ烈^タの^タ中^タ小^タも^タ不^タ思^タ致^タ不^タ脱^タを^タた^タり^タ因^タて^タ以^タて^タ
 居^タ宅^タの^タ建^タ方^タ土^タ瓦^タの^タ造^タり^タ方^タ如^タ何^タ必^タ大^タ地^タ震^タを^タて^タも
 修^タ繕^タせ^タら^タず^タ火^タ破^タ壊^タせ^タ火^タ殊^タ不^タ手^タ輕^タし^タて^タ費^タ用^タ少^タき
 一^タ測^タを^タ擧^タげて^タ防^タ火^タ策^タの^タ後^タ不^タ附^タ録^タ一^タ徳^タ人^タ不^タ示^タして^タ而^タ
 大^タ災^タを^タ脱^タ免^タし^タめ^タむ^タと^タ欲^タを^タ是^タす^タ予^タが
 御^タ國^タ恩^タ不^タ報^タひ^タ奉^タる^タの^タ一^タ端^タ也^タと^タ云^タ爾^タ

防火道具圖説

第一 屋根上ニ鐵環鑱鉤を附する圖



右の界の如く屋土棟木不^シ_レ^テ

防火策圖解卷之上 畢

